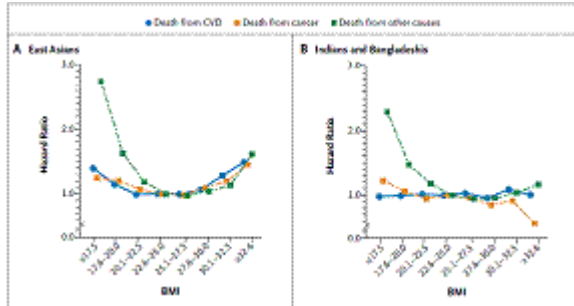


“インドでは、肥っても死ねない？”

Association between Body-Mass Index and Risk of Death in More Than 1 Million Asians

【背景】BMI 22 が健康の証である根拠は、BMI と死亡率についての欧米での疫学研究の結果が基本コンセプトですが、果たしてこれがアジア人にも当てはまるのかについて研究がおこなわれました。

【方法】アジア人を対象にした研究で 1 万人以上、5 年間以上、死亡原因がわかる 19 のコホート研究を総括し、114 万人を対象に BMI22.6-25.0 を基準にした、BMI と死亡率の検討が行われました。



【結果】平均年齢 53 歳、BMI 22.9 の対象で、日本、韓国、中国を含む東アジアでは、BMI22.6-25.0 を基準に死亡率が両方向に上昇する U 字型を形成し、欧米と同様のパターンを示していました。BMI<22 の対象では、BMI の低下に伴い、心疾患、悪性疾患以外の、その他の死因が特に上昇していました。インド-バングラディッシュでは、BMI<22 でのその他の原因の死亡率が逆相関を示すものの、BMI>25 での BMI と死亡率の相

関は認めませんでした。BMI<22 の、その他の死亡原因は、呼吸器疾患が考えられました。

【結論】このように、東アジア諸国とインド-バングラディッシュでの BMI と死亡率のパターンは質的に相違が認められ、特に、肥満とともに死亡率が高くなるのは、東アジアだけに見られる現象でした。いわゆる新興国では、高 BMI というのは、十分な栄養と高度の医療を受けることが可能な富裕の証であろうというのが考察のようです。東アジアの国々も、肥って早死にできる豊かな環境は、歴史的にもそう長くはありません。さあ今夜も、豚バラ食べて、U 字の上り坂を登れる現代日本の豊かさを、かみしめましょう。。(文責 阿比留)